

2014年度 パトリック・ジグマノフスキー氏 ピアノ 特別講義

1. 日 時 : 2014年7月14日(月)9時30分～12時45分
2. 場 所 : F号館 434 教室
3. 対象学生【必修】 : 大学院「室内楽研究(管楽器)A」受講生 他聴講可(学内学生・教員のみ)
4. 講 師 紹 介 : パトリック・ジグマノフスキー氏

裏面参照

.....

.....

.....

5. 講 義 概 要

《 Program 》

- ・モーツァルト ピアノと管楽器のための五重奏曲 変ホ長調 K.452
 第1楽章 : Largo-Allegro moderato
 第2楽章 : Larghetto
 第3楽章 : Allegretto

- ・ベートーヴェン ピアノと管楽器のための五重奏曲 変ホ長調 作品16
 第1楽章 : Grave-Allegro ma non troppo
 第2楽章 : Andante cantabile
 第3楽章 : Rondo (Allegro, ma non troppo)

Patrick Zygmantowski
パトリック・ジグマノフスキー

天才少年として、マルグリット・ロン、ラフマニノフ、ラヴェル、プロコフィエフ、プーランク、ピカソなどとの交流が深かった、フランスの名教授リュセット・デキヤブ（前パリ国立高等音楽院教授）の惜しみのない寵愛を受けた彼は、後、パリ国立高等音楽院入学。ジェルメン・ドゥベーズ、ジャン・ユボー、ジャック・ルヴィエ、パスカル・ドヴァイヨン、ジャン・ムイエル各氏に師事する。同学院にて、ピアノ、室内楽ともに金賞受賞。また彼は、指揮法も勉強するかたわら、在学中にパリ国立オーケストラのピアニストに抜擢され2年間、マゼル、ペカサロネン、プレトルなどの名指揮者のもと、現代曲などを数多く初演した。同時期、ピアノではプレスラー、シェボック、バシキロフ、ピレスにも師事した。卒業後ミュンヘン国立音楽院にドイツ政府奨学金生としてウィリアム・ケンフの直弟子であるゲラルド・オーピッツ氏に師事、ケンフの演奏法哲学、ドイツ音楽の見識を深めた。パリ国際室内楽コンクール1位、UNAPEC 国際コンクール1位、ヘンリゾーゲ国際コンクール1位、他数々の国際コンクールに入賞。その後、クラリネット奏者フロロン・エオーとデュオ、エオージジグマノフスキーを結成。フランス音楽を録音したCDは非常に高い評価を受けた。（リランクス発売）、後ブラームスとレガーのCD（ジズザグテリトワール発売）が発売され、ディアパソン、モンド、クラシカなどに『エレガンスを失わずに威光を放つ演奏』と批評される。また、ソロ活動も盛んでラヴェル全曲集を録音中。

2006年には、現在フランスで活躍中のピアニスト、池田珠代との1台4手ピアノのDVD、CDが日本で発売された。また彼は、ラジオフランス、テレビ出演の他、ロックドンテロン音楽祭、アカデミーラヴェル、カンヌ音楽祭、ソー音楽祭、ランス音楽祭、クールシュベル音楽祭など数々の音楽祭に招かれ、その実力と経験、幅広い交友関係をいかし、2002年から、自らがプロデュース、音楽監督そして出演する「ボルドー音楽祭 MUSIQUE FESTIV'」を毎年手がけている。7回目となる今年も、ボルドーで7月開催、世界各国から一流の音楽家が彼のもとに集まる。2007年より、「ボルドー音楽祭 SIQUE FESTIV' in 横浜」として、日本でもプロデュース。また、作曲、編曲者としても活躍。コメディーフランセーズやラジオフランスで、音楽のジャンルを問わずアレンジメントも手がける非常に多彩なアーティストである。モンペリエ国立音楽院教授、リヨン国立高等音楽院助教授を歴任した後、異例の若さでパリ・エコールノルマル国立音楽院教授にも任命され、教鞭を取っている。2007年、その活躍でフランス芸術アカデミーからデルマス賞を授与された。2008年、大阪音楽大学客員教授に就任。